

新規事業評価調書
【港湾事業】

姫路港旅客ターミナルエリア
再編整備事業

県土整備部
土木局 港湾課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 達可 明朝 (整備班長 藤田 幸治)		内線	4440 (4450)																				
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度																				
港湾事業	姫路港旅客ターミナルエリア再編整備事業	姫路港 飾磨・須加地区	37億円	0.3億円	令和2(2020)年度	令和6(2024)年度																				
事業目的			事業内容																							
姫路港の海の玄関口である旅客ターミナルエリアの活性化は、姫路市のみならず播磨地域の活性化に寄与する。 このため、ポートセンタービルの老朽化や耐震性能の不足、駐車場の不足等による利便性・快適性の欠如、貨物運搬と歩行者の輻輳等の課題解消を図るため「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画（H30.3）」を策定した。 この基本計画に基づき、旅客機能の集約や貨物と旅客の効率的な機能配置などを行い、旅客船利用者の利便性・快適性の向上を図る。加えて、港湾施設の再編とあわせて民間事業者による新たな集客施設を導入することにより、にぎわいの創出を図る。			【工事概要】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">・浮棧橋</td> <td style="width: 10%;">3基</td> <td rowspan="2" style="width: 5%; text-align: center;">} ※1</td> </tr> <tr> <td>・防波堤</td> <td>延長 200m</td> </tr> <tr> <td>・物揚場(水深-3.5m)</td> <td>延長 182m</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">} ※2</td> </tr> <tr> <td>・プロムナード</td> <td>延長 765m</td> </tr> <tr> <td>・フェリー棧橋(水深-4.5m)</td> <td>延長 85m</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">} ※3</td> </tr> <tr> <td>・貨物倉庫</td> <td>1棟</td> </tr> <tr> <td>・駐車場</td> <td>面積 1.1ha</td> </tr> <tr> <td>・旅客船ターミナル改修(既存施設)</td> <td>1棟</td> <td></td> </tr> </table> ※1（負担割合）国：4/10 県：6/10 ※2（負担割合）国：1/3 県：2/3 ※3（負担割合）県：10/10				・浮棧橋	3基	} ※1	・防波堤	延長 200m	・物揚場(水深-3.5m)	延長 182m	} ※2	・プロムナード	延長 765m	・フェリー棧橋(水深-4.5m)	延長 85m	} ※3	・貨物倉庫	1棟	・駐車場	面積 1.1ha	・旅客船ターミナル改修(既存施設)	1棟	
・浮棧橋	3基	} ※1																								
・防波堤	延長 200m																									
・物揚場(水深-3.5m)	延長 182m	} ※2																								
・プロムナード	延長 765m																									
・フェリー棧橋(水深-4.5m)	延長 85m	} ※3																								
・貨物倉庫	1棟																									
・駐車場	面積 1.1ha																									
・旅客船ターミナル改修(既存施設)	1棟																									
			【関連事業の概要】 ・集客施設(民間事業) 面積 1.0ha																							
評価視点	評価結果の説明																									
(1) 必要性	①小豆島・家島方面への定期旅客船利用や家島方面への貨物輸送、大型クルーズ船の寄港等、姫路港の海の玄関口として利用されているが、ポートセンタービルの老朽化や耐震性能の不足、駐車場の不足など、旅客機能の改善が必要。 ※定期旅客船利用者：約91万人/年、大型クルーズ船寄港：6隻/年(令和元年度予定)、ポートセンタービル：昭和50(1975)年建設(建設後44年経過) ②旅客船ターミナルは1階を貨物倉庫として利用しており、貨物運搬に時間を要する上、クルーズ船寄港時等には貨物車両と歩行者が輻輳するため、旅客と貨物の機能分離が必要。また併設する駐車場を含め低利用となっているため、旅客船ターミナルを活用したポートセンタービルの旅客機能の移転による旅客機能の集約が必要。 ③飾万津臨港公園前が物揚場となっており気軽に近づける水辺空間になっておらず、プロムナード等による魅力的なみまと空間の形成が必要。 ④旅客船利用者に加えて、地元、市民やその周辺住民等の多くの人々が利用できる新たな集客施設の導入により、姫路市の臨海部における人のにぎわいと魅力ある交流の場となることが期待されている。(民間資金を活用した関連事業)																									
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比 $B/C=1.1$ ②旅客機能の集約による移動時間の短縮、貨物と旅客の機能分離による貨物車両と歩行者の輻輳解消とともに、エリア全体の再編整備により交流機会の増加が図られる。 ③学識経験者、地元代表、商工・観光・ふ頭関係者、行政で構成する「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画策定委員会」において、再編整備の目指すべき方向性や取組方策を検討し、平成30(2018)年3月に基本計画を策定している。 ④令和元(2019)年7月に港湾計画を改訂している。																									
(3) 環境適合性	①物揚場については既設の護岸を活用し、建設副産物や水質汚濁等の発生を最小限とすることから、環境に与える負荷が小さい。 ②陸域に加えて海上からの見え方にも配慮し、プロムナードや緑化整備を行い、姫路港の海の玄関口としてふさわしい良好な港景観の形成を図る。																									
(4) 優先性	①ポートセンタービル((株)姫路ポートセンター所有)は、旧耐震基準の建物であり、建設後44年が経過していることから、更新時期(耐用年数：建設後50年)が迫っている。交通結節機能の維持・確保とともに、急増するクルーズ需要にも対応し臨海部のにぎわいの拠点を創出するため、早期に再編整備に着手する必要がある。																									
【事後評価】 対象・対象外	①当該エリアへの来訪者数及び満足度																									

姫路港旅客ターミナルエリア再編整備事業

位置図・平面図

目的

旅客機能を集約し、貨物と旅客の効率的な機能配置を行うことで、利便性・快適性の向上とターミナルエリアの活性化によるにぎわい創出を図る。

事業概要

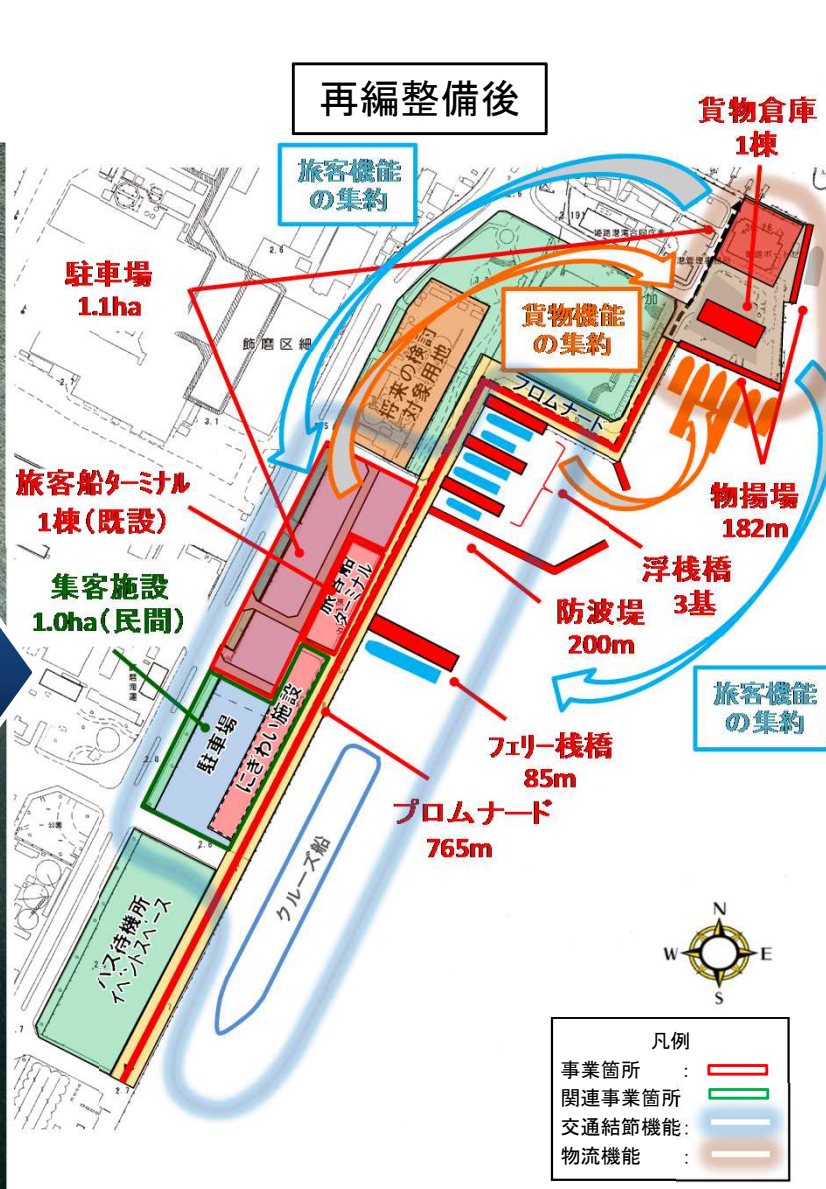
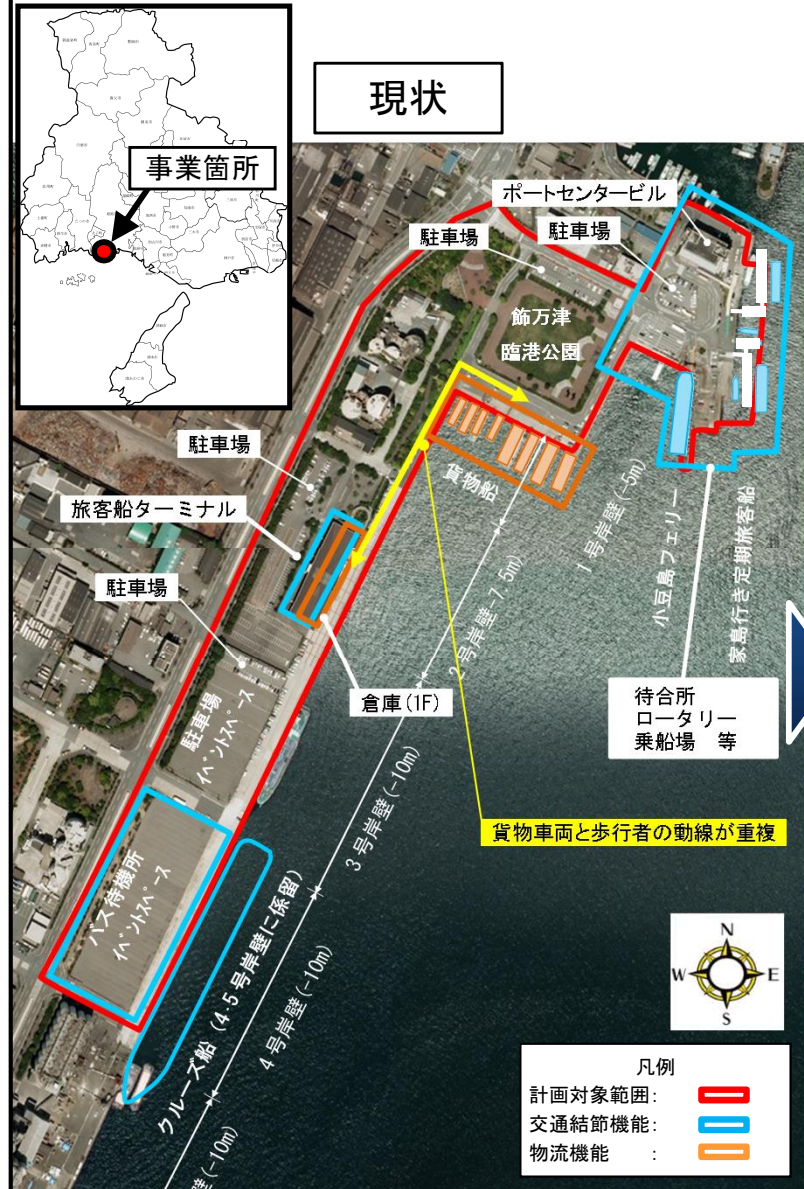
事業区間：姫路港飾磨・須加地区
 総事業費：37億円
 内用地補償費：0.3億円

事業期間：R2～R6
 事業概要：

- 【本工事】
- 浮棧橋 3基
 - 防波堤 延長200m
 - 物揚場(-3.5m) 延長182m
 - プロムナード 延長765m
 - フェリー棧橋(-4.5m) 延長85m
 - 貨物倉庫 1棟
 - 駐車場 面積1.1ha
 - 旅客船ターミナル改修(既設) 1棟
- 【関連事業】
- 集客施設(民間) 面積1.0ha
- 費用便益比B/C: 1.1

現状

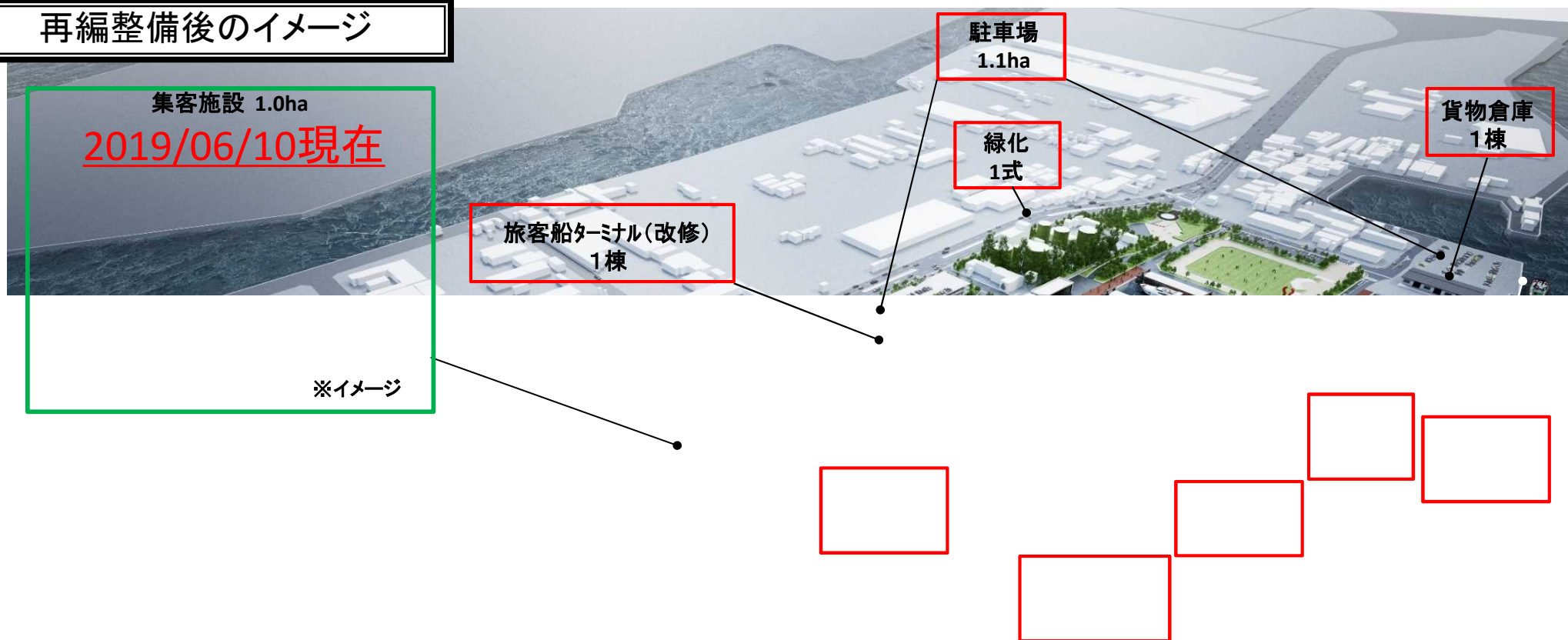
再編整備後



事業の必要性・優先性

- ① ポートセンタービル(建設後44年経過)は老朽化が進行し、耐震性能も不足している上、繁忙期には隣接する駐車場が不足しているため、旅客機能の改善が必要。
- ② 旅客船ターミナル1階は貨物用倉庫として利用しており、貨物車両と歩行者が輻輳している。急増するクルーズ需要にも対応するため、貨物と旅客の機能分離が必要。また旅客船ターミナルは併設する駐車場を含め低利用となっているため、旅客船ターミナルへのポートセンタービルの旅客機能の移転による旅客機能の集約が必要。
- ③ 飾万津臨港公園前が物揚場となっており気軽に近づける水辺空間になっておらず、プロムナード等による魅力的なみなと空間の形成が必要。
- ④ 旅客船利用者や地元、市民等の多くの人々が利用できる新たな集客施設の導入による、人のにぎわいと魅力ある交流の場の創出。

再編整備後のイメージ



凡例	
事業箇所 :	
関連事業箇所 :	
交通結節機能 :	
物流機能 :	

